

放射線照射後の創治癒遅延症例に対する プロントザンの使用経験

東北大学医学部 形成外科

長尾 宗朝 先生 渡部 紀久子 先生 館 正弘 先生

症例 1

59歳男性 右膝窩部皮膚難治性潰瘍、右大腿部悪性軟部腫瘍（未分化多型肉腫）

既往歴：特記事項なし

現病歴：約3ヶ月前に右大腿部の腫瘤を自覚し、急激な増大傾向のため近医を受診。画像精査で右大腿部軟部腫瘍が疑われ当院整形外科紹介となった。その後、胸水貯留など増悪がみられ、化学療法施行後に腫瘍切除の方針となった。整形外科で右大腿部屈側面の腫瘍拡大切除を施行後、当科へ再建依頼となり植皮、皮弁による手術を行った。術後、膝窩部周囲で一部皮膚の生着不良があり、潰瘍を形成した。潰瘍部の処置を続けながら1ヶ月後に放射線療法、化学療法を開始した。術後4ヶ月経過しても上皮化が得られず、創部はバイオフィルムの存在を疑わせる膿苔を形成し、治癒遅延が認められた。6ヶ月後、辺縁の腫瘍再発に対して再度放射線療法を行うために入院となったのを機に、残存潰瘍に対して間欠型持続洗浄付陰圧閉鎖療法（NPWTi-d）を開始した。NPWTi-dで4週間治療を行い、良好な肉芽形成も認められたが、治療を終了し、外来通院でプロスタグランジンE1軟膏や白糖・ポピドンヨード軟膏での処置を再開したところ、再びバイオフィルムの存在を疑わせる膿苔形成が認められた。そのため、プロントザンでの処置に切り替えた。1日1回洗浄、ゲルの塗布、被覆材での処置を行ったところ、膿苔も減少し、再び創収縮傾向が得られ始めている。



写真1 プロントザン使用開始前

黄色の膿苔を認められ、その都度メンテナンスデブリドマンを行うも、同様の状態を繰り返し、創収縮が認められなかった。



写真2 プロントザン開始後40日

プロントザン開始7日目あたりから、明らかに膿苔も減少し、創収縮傾向が認められ始めた。



写真3

放射線皮膚潰瘍へのプロントザン創傷洗浄用ソリューションおよび創傷用ゲルの使用



写真4

メンテナンスデブリドマンの後に、プロントザン創傷洗浄用ソリューションを浸したガーゼを15分程度留置。その後、プロントザン創傷用ゲルを塗布して、被覆材保護を行った。

症例 2

86歳女性 右大腿部皮膚難治性潰瘍、右大腿部悪性軟部腫瘍（線維肉腫）

既往歴：特記事項なし

現病歴：右大腿内側部の腫瘍を主訴に、近医を受診し、軟部腫瘍が疑われるとのことで当院整形外科紹介となった。生検を行ったところ、線維肉腫の診断となった。同部位に50Gyの術前放射線照射を行った後に、拡大切除を行い、皮膚縫合が行われた。しかしながら術後より創離解を認め、皮膚潰瘍を形成した。整形外科で陰圧閉鎖療法が開始となったが、壊死組織、バイオフィルム形成の存在を疑わせる膿苔を認め、創治癒遅延を認めたため当科紹介となった。当科でスルファジアジン銀クリームを使用開始するもバイオフィルムも壊死組織も固着しており、2週間後にプロントザン使用に切り替えた。1日1回の処置を続け、それにより約1週間で部分的に良好な肉芽もみられるようになってきた。さらに3週間後、順調に壊死組織や膿苔も除去でき、大部分で肉芽形成が認められたため、植皮術を施行し、創収縮が得られた。



写真5 プロントザン使用開始前

脂肪壊死組織および膿苔を認め、プロントザンを開始した。



写真6

プロントザン創傷洗浄用ソリューションを浸したガーゼへの壊死組織の付着



写真7 プロントザン開始後10日

壊死組織の残存は認めるものの、明らかに肉芽色調の改善が認められている。

考 察

2症例ともに、当院整形外科軟部腫瘍班からの紹介症例であった。背景として、腫瘍切除の前後に放射線照射を行い、その影響もあって創治癒遅延を生じて保存的治療に難渋した。それまでにスルファジアジン銀クリームや白糖・ポピドンヨード配合軟膏などを用い、エイヒで創部を擦過するなど、メンテナンスデブリードマンをしては、またバイオフィルムの存在を疑わせる膿苔形成を繰り返し、治癒機転への兆候は皆無であった。肉芽形成も悪い状況であったが、プロントザン創傷洗浄用ソリューションおよび創傷用ゲルを使用開始してから、約1～2週間程度でバイオフィルムの存在を疑わせる膿苔形成が減少し、再び創収縮傾向に転じることが確認された。

バイオフィルムを形成し、既存の治療が奏功しない褥瘡や放射線潰瘍などの慢性創傷がプロントザンの良い適応と考えている。しかしながら、治癒までは時間を要する症例も多いため、根気強く処置継続を必要とすることは、今までと変わりはない。さらに、プロントザンのみで完全上皮化まで得られていない症例もあり、その適切な使用期間に関しては、さらなる検討を要すると思われる。

プロントザン創傷洗浄用ソリューションおよび創傷用ゲルは、NPWTi-dなどの機器を使用せず、また疼痛を伴わずにバイオフィルムの再形成を押さえ、再び治癒機転を促すことができる有用な一手段になると思われた。

製造販売元

ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-16

カスタマーサービスセンター：☎0120-401-741（フリーダイヤル）

コーポレートサイト：www.bb Braun.jp



プロントザンに関する
詳しい情報はこちらから

opm.bb Braun-japan.com